

家畜衛生広報



ながの

平成 24 年 (2012 年) 1 月 20 日

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Facs.026-227-2665
E-mail: nagakachiku@pref.nagano.lg.jp



定期報告について

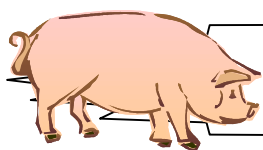
平成 23 年 10 月 1 日より、飼養衛生管理基準※が定められた家畜の所有者は、毎年、家畜の頭羽数及び衛生管理の状況について都道府県知事に報告することが義務付けられました(家畜伝染病予防法第 12 条の 4)。

平成 23 年分の報告(平成 23 年 10 月 1 日現在)については、すでに報告をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

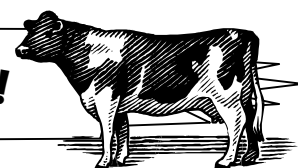
平成 24 年分については、別途、該当する方に通知しますので、通知の内容(飼養状況に加え衛生管理状況等についても報告)について、本年 2 月 1 日現在の状況を期限までに報告していただくようお願いします。

※ 飼養衛生管理基準については別添冊子(牛・めん羊・山羊等、豚・いのしし、鶏その他家畜、馬)を参考にしてください。

今後とも、家畜伝染病、特に、口蹄疫、高病原性・低病原性鳥インフルエンザ等の発生予防に努めていただくようお願いいたします。

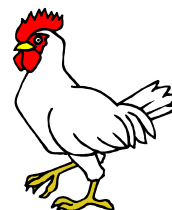


近隣国で家畜伝染病が発生しています！



昨年 10 月以降、豚の口蹄疫が台湾各地(4 件)や中国湖北省(1 件)で確認されています。

また、1 月 6 日に、低病原性鳥インフルエンザの発生が台湾彰化県の採卵鶏農場(63,000 羽飼養)において確認された旨、国際獣疫事務局(OIE)に報告がありました。この他、香港、インド、ブータン等のアジア諸国においても高病原性鳥インフルエンザが発生しています。



関係者は海外旅行を自粛するとともに、やむを得ず海外に出かける場合は、家畜の飼養場所等へ近寄らないようにするなど細心の注意をお願いします。

また、国内においては、カモやハクチョウなどの渡鳥が各地に飛来し、最も感染リスクの高い時期になっております。

病原体を持ち込まないために、引き続き徹底した防疫対策をお願いします。

(防疫課 担当：市川憲一、青木一郎)

返上しよう！“乳質ワースト1”

東海酪連管内4県の中で、長野県の乳質がもっとも悪く他県にペナルティーを配分している状況です。さらに県内では長らく北信がワースト1になっています。

乳質の悪さは直接のペナルティはもちろん、乳房炎が原因の場合はそれによる乳量減少も大きな損失になります。乳質向上に取り組み、乳房炎が減ったら乳量が2割増えたという例もあります。

“安全安心信州ミルク”という消費者の信頼を裏切らないためにも、また、所得アップのためにも、改めて乳質向上に取り組み「汚名」を返上しましょう！

乳質向上のポイント

衛生的な搾乳

- ・搾乳時には使い捨て手袋を装着
- ・前搾りは5回以上、ストリップカップで異常確認
- ・乳頭清拭は一頭一布（汚れたら二布・三布）
- ・ディッピングは浸漬タイプで
- ・搾乳機器の洗浄はマニュアル通りに

モニタリング

- ・定期的なバルク乳細菌検査（下記で詳しく）
- ・PLテスター等で乳房炎牛早期発見

機器整備

- ・ミルカー、ポンプ、バルククーラー等は定期的メンテナンスを



バルク乳検査による乳質向上

月3回のバルク乳検査結果は毎回ご覧になり、乳質の状況は把握していることと思いますが、細菌培養検査を行うことによりさらに有益な情報が得られ、乳質向上に役立てることが出来ます。

- ・検出される細菌の種類や数によって体細胞数や細菌数が多い原因が推定できる（乳房炎？乳房炎の種類？洗浄不良？・・・）
- ・原因に基づいた対策が立てられる。
- ・個体検査に進んでいく足がかりになる。
- ・改善効果が数字として表れる。

定期的にバルク乳検査を行い、乳質向上を目指しましょう。

検査、具体的な衛生的搾乳方法などのご相談は環境指導課までお願いします。

（環境指導課 担当：和田浩彦、増山絢子）

肥育牛のビタミンAコントロールは大丈夫ですか？

多くの肥育農家が脂肪交雑向上のためのビタミンAコントロールを行っておられると思います。極端な欠乏による盲目やズルの発生は少なくなったようですが、低ビタミンAによる増体遅延などの潜在的な弊害がでている可能性があります。

定期的にステージ毎の検査を行い、下表を参考にビタミンAコントロールがうまくいっているか確認してみましょう。

検査のご用命は家畜保健衛生所まで。



肥育ステージとビタミンA

肥育期 (月齢目安)	肥育前期 (8～13カ月齢)	肥育中期 (13～23カ月齢)	肥育後期 (23カ月齢～)
ステージと ビタミンA	骨、筋肉の発育のため十分な量が必要な時期。	脂肪交雑が促進される時期。ある程度低める。	脂肪交雑に影響を及ぼさない時期。低める必要はなく、増体のためには一定量以上必要。
ビタミンA値 (血中IU/dl)	100～120	30～50	50以上
飼料給与方法	β -カロテンの多い良質な乾草等を充分給与する。	ワラなどの β -カロテンの少ない飼料を給与する。	ワラに加えて、ヘイキューブなどの β -カロテンの高い飼料を給与する。

注) 肥育後期の高 β -カロテン含有飼料の過剰給与は、脂肪色・肉色に影響しますので注意が必要です。

(環境指導課 担当：和田浩彦、増山絢子)



＜＜連絡先：長野家畜保健衛生所 電話 026-226-0923＞＞